

目次

口 絵..... I

まえがき..... V

I 原子力時代の夜明け

1 ついに原子の火..... 1

異様な緊張(1) 制御棒を抜くぞ!(2) 待ちに待った一瞬(4)

2 JRR一号の歩み..... 6

設計図つきオモチャ(6) 設計上まわる性能(7) 一号炉が生んだ成果(8) 水に悩まされる(10)

3 泣かされました..... 12

デコボコ道の悩み(12) 不安の連鎖反応(14)

4 原研のアメリカ人..... 15

米語ノイローゼ(15) クインチクのなげき(16) ボイラー故障騒動(17) さすが  
能率の国(18)

5 く借りものぐというなかれ……………19

日本人のチエ(19) 原子炉をつなぐ男(20)

6 われらはクモロッコ部隊……………22

砂漠の混成軍(22) 思わざるブレイキ(23) 学者のストライキ(24) 課長は二等・  
博士は三等(26) 倉庫に眠るヘヤー乾燥器(27)

7 く原子の火く消える……………28

三度目のスト宣言(28) く指導者が欲しいく(29) 組織づくりの不手際(30) 新  
理事長を迎える(31)

8 波静かな原研昨今……………32

給与の改善も決まる(32) こんどは動力用試験炉(33)

## II 英発電炉導入始末記

1 バスに乗り遅れるな……………35

やつと閣議了解(35) 二つのグループ(37) 原子力皮算用(39) く採算にのるく  
(41)

2 電発と九電力会社……………43

電発誕生のシヨリ(43) 負ケラレマセン(44) 日本原子力発電会社(46) 英炉輸  
入うち出す(47)

3 耐震性めぐり大ゆれ……………49

イバラの道(49) 非安全説高まる(50) 対策小委の中間報告(52)

4 安川調査団、英国へ……………54

学者グループの追い討ち(54) まず英語の勉強から(56) 日英の妥協なる(58)  
安全性に強い自信(59)

## III 切り花の原子力

1 討論会・二つの焦点……………62

絵に書いたモチ(62) 動力炉の設置計画(64) —安全性を重視—国産化へ足がかり  
—基礎を積みあげよ—意外に高い発電コスト—飛躍している長期計画—まず十分  
な準備を—アイマイな経済性—あまり急ぐな

2 金が安全のバロメーター……………72

原子力施設の安全性(72) —個々の原子炉について—専門のスタッフを—耐震設計  
は不可能でない—許容濃度の再検討を—金は十分に使え—事故は起ると考えて—  
許容量は絶対ではない—安全性は社会的概念

## IV 原子力発電計画やつと軌道へ

1 一難去ってまた一難……………77

逆転層と温度係数(77) 「プラス」論争(79) 英三社の売込み(81) ついに公聴会  
く(83)

2	安全と認める	85
3	工事進む東海原子力発電所 建設のツチ音(94) ハチの巢型(96)	94
V 原子力記者のメモから		
1	ジョン・コッククロフト卿	98
2	学者タイプ(98) 科学問答の一週間(99) 科学する少年(100)	101
3	もめる関西研究用原子炉 強い地元の反対(101) 学者の反対運動(102) 学術会議の見解(103) 机上の原子炉工学(105)	105
4	ノウハウからぬ	108
5	どうも割切れぬ(105) エネルギー経済(106) 放射能の恐威(107)	111
6	続・関西研究用原子炉 後続部隊の養成(108) 遅々とした国立系(110)	111
7	日本のウラン資源 ウラン風呂(111) 空中探査(112) 裏日本が有望?(113) 心細い含有量(114)	116
VI 産業界の原子力グループ		
1	アトへはひけぬ(116) 二号発電炉めぐって(117) 続々専門会社誕生(118) 日本原子力事業(119) 三菱原子力工業(120) 住友原子力工業(122) 第一原子力産業界グループ(123)	127
2	東京原子力産業界(124) 東急(126)	127
VII 原子力の顔		
1	菊池正士氏(127) 安川第五郎氏(130) 中曾根康弘氏(134) 一本松珠璣氏(136) 正力松太郎氏(139) 嵯峨根達吉氏(141) 佐々木義武氏(144) 伏見康治氏(147) 駒形作次氏(150)	175
2	湯川秀樹氏(152) 松根宗一氏(155) 菅禮之助氏(158) 太田垣士郎氏(162) 石川一郎氏(165) 坂田昌一氏(168) 大屋敦氏(171)	175
VIII 続・原子力の顔		
1	原子力委員	175
2	原研の理事	178
3	原燃と放医研	184
4	産業界	187